



Information_5



犬フィラリア症のおはなし

毎年春になるとフィラリア予防が始まります。今回はフィラリアがどのようなものなのか、具体的にお話したいと思います。

フィラリア症とは

犬フィラリア（犬糸状虫）という寄生虫が、蚊によって犬の体内に侵入し心臓や肺動脈で繁殖します。その結果、血液の流れが悪くなり、様々な症状が引き起こされる病気です。

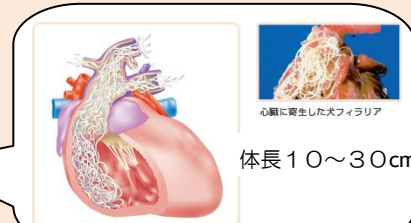
フィラリアの一生

誕生

寄生した犬の心臓や肺静脈で、親虫がマイクロフィラリアとよばれる幼虫を生む（体長約0.3mm）



フィラリア感染犬



心臓に寄生した犬フィラリア

体長10~30cm

蚊の体内へ

蚊が感染犬の血を吸う時、マイクロフィラリアも一緒に蚊の体内に入っていきます。2~3週間かけて蚊の体内で成長します。

再び犬の体内へ

成長したマイクロフィラリアは蚊の口元で待機し、蚊が犬の血を吸う時に犬の体内へ侵入します。皮膚や筋肉の中で約70日かけてさらに成長していきます。



フィラリア未感染犬



マイクロフィラリアをもっている蚊

血流に乗って心臓へ

成長したマイクロフィラリアは血流に乗り、心臓や肺静脈にたどり着きます。約半年後、成熟した親虫はマイクロフィラリアを生みます。そのマイクロフィラリアは犬の血液の中で、再び蚊に吸血されるのを待ちます。

このように、フィラリアは蚊と犬の体を借りて繁殖する寄生虫です。

予防=マイクロフィラリアを成長させない!

フィラリアを予防するには、マイクロフィラリアをもった蚊に刺されないようにするのが一番かもしれませんが、現実的ではありません。

そこで、たとえ犬の体内にマイクロフィラリアが侵入してもそれ以上成長しないように駆除することでフィラリア症を予防します。

つまり、フィラリア症の予防は

感染→駆除→感染→駆除→感染→駆除→感染→駆除……

この繰り返しなのです。なので、蚊がいなくなってから1ヵ月後のその年最後の投薬がとりわけ重要です。早めに予防を止めてしまうと冬の間マイクロフィラリアは成長し、翌春には親虫になってしまいます。

スタッフより

フィラリアは3シーズン無予防だと、ほぼ100%感染すると言われています。症状は辛く、命に関わります。月1回の予防薬でフィラリア症からしっかり守ってあげましょう。

